

定例記者会見 市長コメント (概要)

① 令和3年12月釜石市議会定例会付議事件について（資料1）

本日招集する定例会に付議する事件は、23件で、内訳は、条例5件、予算5件、その他の議案13件。

令和3年12月補正予算について

資料の1-3「予算の概要と主要事業」の1ページ、今議会に提案する補正予算は、一般会計、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計、介護保険事業特別会計、公共下水道事業会計の5件。

一般会計の補正額は13億6,200万円の増額で、補正後の予算額を225億4,400万円としたもの。

補正予算では、新型コロナウイルス感染症対策の各種支援事業やワクチン予防接種事業などを計上するとともに、新たな高等教育機関の開校準備にかかる債務負担行為の設定などを行っている。また、新規事業は、資料7ページの通り、2件、1,875万6千円を計上している。

今回提案する予算のうち、主要な事業を資料に沿ってご説明する。

資料3ページ、番号1の「三陸鉄道運営支援事業」、予算額1,210万9千円は、新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な減収によって、運行本数の維持に支障を及ぼす恐れがある三陸鉄道に対し、岩手県及び沿線市町村で、運行維持に要する人件費、燃料費等に対する支援を行うもの。

番号2の「新型コロナウイルス感染症対応生活困窮者冬季特別対策事業」、予算額1,725万6千円は、県の助成制度を導入し、生活困窮者に対して、灯油、電気、ガス等のほか、冬季の生活を支える防寒用品や雑貨類等の購入費の一部を支援することにより、冬期間の経済的負担の軽減を図るもの。

番号3の「新型コロナウイルスワクチン予防接種事業」、予算額2億1,287万9千円は、新型コロナウイルスワクチンを2回接種した人のうち、3回目の追加接種を希望する18歳以上の人の接種機会を確保するため、個別接種や集団接種の経費などを増額計上したもの。

資料4ページ、番号4の「新型コロナウイルス感染症米価下落緊急対策事業」、予算額150万円は、新型コロナウイルス感染症の影響による消費量の減少から、米の在庫過剰が続いたことにより、令和3年産の米価が下落していることから、令和4年の作付に向けた水稻の種苗費や収入保険制度への加入を緊急的に支援し、農業者の生産意欲の向上と経営の安定化を図ろうとするもの。

番号5の「新型コロナウイルス感染症経済対策事業」、予算額130万円は、岩手県が実施する「地域企業経営支援金」の対象とならない製造業などの事業者に対して、市独自の給付金を支給するための予算を1,750万円計上するとともに、国の雇用調整助成金の特例措置等の延長に伴い、市で行う予定であった同様の事業の取り止めによる予算の減額など、所要の予算調整を行ったもの。

資料5ページ、番号8の「公共土木施設災害復旧事業」、予算額2億9,640万円は、令和3年1月の気温の低下によって地盤中の水分が凍結し、地面が隆起したことにより、舗装面にひび割れ等の被害が発生した市道を復旧するもの。

番号9の債務負担行為、「庁舎等維持管理費・教育センター改修設計業務委託」、限度額2,100万円は、令和3年9月6日に当市と包括連携協定を締結した学校法人龍澤学館の高等教育機関開校準備のため、教育センターの現地調査等を実施し、漏水対策や空調設備等の改修に必要な詳細設計を行うもの。

番号10の債務負担行為、「避難道路整備事業」、限度額2,000万円は、津波による浸水被害があった水海地区で実施している、高台への避難階段の設置にかかる工事費を計上するもの。

その他の主要な事業につきましては、資料3ページ以降をご覧願う。

なお、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源としている事業は、資料の17ページを参照願う。

② 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナワクチンの接種が進んだことにより、国内の新規感染者数は大幅に減少しており、県内をはじめ、全国的に感染が沈静化していることから、市民の皆様には、マスクの着用や手指消毒など、基本的な感染対策をしっかりととした上で、社会活動や経済活動などを活発に行っていただくために、当市では、施設の収容人数制限などを緩和しているところである。

また、これまで5人以上の会食については、感染リスクが高まるため控えるようお願いしてきたが、会食時の人数制限はしていない。

会食の際には、感染対策が整っている「いわて飲食店安心認証店」をはじめ、人数に応じたスペースのある飲食店を利用し、また、三密を回避し、短時間で深酒をせず、大声を出さず、会話の時はマスクを着用した上で楽しんでいただき、これまで耐え凌いできた飲食店等の事業者の皆様を積極的に応援していただくようお願いする。

なお、年末年始を迎えるにあたり、市としても、職員に対し職場や家庭などにおいて会食の機会を増やしていただくよう働きかけてまいる。

しかしながら、新たな変異株である「オミクロン株」が欧州などで拡大しているほか、国内でも感染者が確認されている。さらに、これから季節は換気の徹底が難しくなることから、再び感染が拡大することも想定されるので、市民の皆様には、引き続き、十分な警戒と基本的な感染防止対策を実践していただくようお願いする。

また、現在のところ、国内において感染が拡大している地域はないが、移動先の感染状況に留意され、引き続き、慎重に行動していただくようお願いする。

新型コロナワクチンの接種状況についてである。

12歳以上の接種対象者への接種状況については、11月30日現在、対象者29,343人に対し、2回目の接種を終えた方は、26,629人、接種率は90.8%となり、接種を予約されていた方の2回目の接種は、終了した。

また、3回目の追加接種については、現在、釜石医師会をはじめ各医療機関と調整を図り

準備を進めている。市民の皆様には、今後の「広報かまいし」で、接種スケジュールや予約方法などを案内する。

次に、生活に困窮されている方への支援についてである。

釜石市社会福祉協議会が窓口となり、一時的な資金の緊急貸付を行う「生活福祉資金貸付制度」は、昨年3月からこれまで280件の相談が寄せられており、生計の維持が困難になった場合に少額の貸付を行う「緊急小口資金」は、125件、2,375万円、生活再建までの費用の貸付を行う「総合支援資金」は、のべ100件、5,565万円の貸付が行われている。

なお、貸付期間が終了した後も生活に困窮する世帯を支援する「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」は、前回の報告と同様1件の支給を決定している。

これらの生活困窮者支援策については、11月19日に閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」を踏まえ、申請受付期間が延長される見込みであり、引き続き、関係機関と連携し、生活に困窮する世帯に必要な支援が届くよう努めてまいる。

次に事業者支援についてである。

長期化する感染症の影響下にあっても事業が継続できるよう、売上げが減少している事業者に対し給付金を交付する「釜石市経営支援給付金」は、11月30日現在において136事業者から申請があり、本日までに120事業者に1,260万円を交付している。

感染防止対策に経費を要す一方で、人流抑制の影響により利用者の減少が深刻な飲食店等に対し支援金を交付する「かまいし飲食店安心認証支援金」は、11月30日現在において97事業者から申請があり、本日までに88事業者に900万円を交付している。

宿泊料金の割引を行った宿泊業者に対し補助金を交付する、「かまいし宿泊エール割事業」は、11月15日現在で、16,835人泊分の利用があった。

市としては、これらの事業により、引き続き市内事業者を支援し、地域経済の活性化を図つてまいりたいと考えている。

③ ぼうさいこくたい 2021 開催結果について

内閣府をはじめとする防災推進国民大会 2021 実行委員会が主催する「第6回防災推進国民大会」が11月6日、7日の2日間にわたって釜石市民ホール TETTO 及び釜石情報交流センターなどを会場に開催された。

この大会は、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験などの共有及び防災に取り組む方々の連携構築のために行う国内最大級の防災イベントであり、全国から100を超える団体が参加し、防災に関するセッション、ワークショップ、プレゼンテーション及び屋外展示などが行われた。

東日本大震災から10年の節目を迎えた重要な年に、三陸沿岸被災地である釜石で開催することは震災復興へのご支援に対する感謝を伝えるとともに、震災の経験や未来の命を守る教訓をより多くの方々に伝える「防災教育のまち・かまいし」を全国に発信する機会としても大きな意義を持つ大会となった。

今年の大会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、入場制限を行った現地参加とオ

ンライン参加を併用したハイブリット形式で開催されることとなり、確定前の数値であるが、現地参加及びオンライン参加を併せて全国から、延べ 16,000 人以上の方にご参加いただいた。

大会では、「震災から 10 年つながりが創る復興と防災力」をテーマに開催地特別プログラムとして、「いのちをつなぐ未来館」の防災学習プログラムの紹介、内閣府主催のハイレベルセッションでは当市の震災伝承の取組の紹介、クロージングセッションでの釜石東中学校生徒による合唱、釜石高校生有志による「夢団」及び釜石市防災市民憲章制定市民会議代表による震災の教訓を語り継ぐ取り組みなど釜石発のメッセージを伝えることができた。

また、岩手県や当市等で構成する実行委員会では、今大会に併せて「いわて・かまいし防災復興フェスタ」を開催し、ぼうさいこくたいのセッション、プレゼンブース、屋外展示への出展の他、沿岸各市町村が取り組んでいる震災伝承や防災教育等のプログラムを紹介するパネルを展示し、「防災を学習する場」としての三陸を広く発信した。

さらに、三陸沿岸の伝承施設や震災学習列車を活用した学習ツアーナども開催し、被災地でしか体験できない「学び」に、県内外からの参加者に触れていただくことができた。

近年、豪雨や台風などによる自然災害が全国各地で頻発化、激甚化しているなか、将来にわたり誰一人として犠牲にならないまちづくりを進めることは、私たち共通の願いである。

当市では、これからも震災の経験や未来の命を守る教訓をより多くの方々に伝える「防災教育のまち・かまいし」を発信することにより、地域の防災意識・防災力の向上につなげていくこととしているので、今後とも皆様のご理解・ご協力をお願いする。

④ いわて・かまいしラグビーメモリアルイベントについて

当市と岩手県及び県内の関係機関で組織する「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント実行委員会」は、11月14日に釜石鵜住居復興スタジアムにおいて「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント」を開催した。

当日は好天に恵まれ、イベントのメインである釜石シーウェイブスとコベルコ神戸ステイラーズのメモリアルマッチは、2,085 人の方に観戦いただいた。

また、グラウンドの周辺で行った「いわて・かまいしファンゾーン」には、メモリアルマッチ観戦のため入場された方を含む 2,445 人の方にご来場いただき、大変にぎわったところである。

来場された方からは、「ラグビーの熱を感じ、元気をもらった」、また「大勢の人が集い嬉しい」といった声をお寄せいただいている。

新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、メモリアルマッチの観戦者の上限を 3,000 人として開催したことから、試合の模様を動画配信サイト「ユーチューブ」のラグビーのまち釜石チャンネルでライブ配信したところ、1,104 の瞬間最大同時接続数となった。

それ以降も再生回数は伸び続けており、11月末現在では約 15,000 回再生されている。

イベントに来場できなかった県内外の方々はもとより、世界中に向けて情報発信を行ったことは、大きな成果と捉えている。

これまで何度も申し上げたとおり、台風第 19 号の影響で中止となったナミビア対カナダ戦が実現するまで、ラグビーワールドカップ 2019 岩手釜石開催は終わらないと考えている。

今後、フランス大会の予選・本選があり同カードの実現はしばらくの間は困難な状況となることが予想されるが、引き続き実現に向けて、県や日本ラグビーフットボール協会などの関係機関と連携して取り組んでまいる。

なお、このイベントのメモリアルアトラクションにおいてスペシャルゲストとしてご出演いただいた平原綾香様には、釜石応援ふるさと大使にご就任いただいた。今後も当市の P R にご支援をいただきたいと考えている。